UNSOLVED CASE BRIEFING & INVESTIGATION GUIDE

潮待グランドホテル 不審死事案
未解決記録係 非公式ブリーフィング票 兼 捜査手引書

取扱厳重注意

プロローグ：2026年11月19日 午後6時00分

雨が降り始めた夕暮れ時、あなたの事務所の郵便受けに、見覚えのない茶封筒が差し込まれていた。差出人の名前はない。中に入っていたのは、1枚のICアクセスカードと、クリップで留められたA4のプリントアウト用紙だけだった。

用紙の上部には「警視庁刑事部 未解決記録係 内部参照用」と印字されており、余白には青いボールペンで切迫した文字が走り書きされている。

神崎刑事からのメッセージ

青ペン直筆メモ写し (1/2)

突然の接触を許してほしい。警視庁未解決記録係の刑事、神崎だ。裏社会の噂に過ぎないかもしれないが、君が『過去に赴き、当時の生の記録や現物をそのまま持ち帰れる探偵』だと聞き、職を賭して接触することにした。歴史そのものは変えられないそうだが、それで構わない。私が必要なのは、15年前に闇へ葬られた真実の証明だけだ。

追うのは、ちょうど15年前の今夜――2011年11月19日の夜に瀬戸内海の老舗クラシックホテル「潮待グランドホテル」で起きた、ある資産家の不審死だ。

潮待グランドホテルは岬の先端に建っており、本土と繋がる唯一の石造りの連絡道「海鳴り堤道」は、大潮の満潮時になると海面下へ完全に沈んでしまう。事件当夜はまさに大潮だった。21時00分から翌朝4時15分までのあいだ、ホテルは海の上に孤立した完全な密室となっていたのだ。

その夜、ホテルの本館2階・大宴会場「曙」では創立100周年記念パーティーが開かれ、8名の関係者が集まっていた。パーティーがお開きとなった21時30分以降、8名は広大なホテルの本館・東館・旧館・地下へとそれぞれ散らばった。そして翌朝5時30分。中庭の石畳の上で、宿泊客のひとりであった建築投資家・橘健一（当時55歳）が冷たくなって発見された。

神崎刑事からのメッセージ（続き）

青ペン直筆メモ写し (2/2)

当時の警察は「本館3階・展望ラウンジのバルコニーから泥酔して転落した単独事故」として早々に処理を終えた。だが先日、未解決事案のサーバー記録を整理していて、私は背筋が凍るような痕跡を見つけた。この一件の公式検案データだけが、事件から数ヶ月後に何者かの権限で不自然に上書きされていたのだ。さらに、当時の現場担当だった故・柴田警部補の古いロッカーの奥から、『公式記録は書き換えられた。当夜の生の現場を見直せ』と走り書きされたメモが出てきた。

誰かが、公式記録を意図的に改ざんしている。あれは事故ではない。満潮の孤島と化したホテルの中で仕組まれた、計画的な犯行だ。

しかし、当時の現場メモやホテルの紙資料は15年のあいだにすべて廃棄・散逸しており、現代の警察には「書き換えられた後のデジタルデータ」しか残っていない。もし噂が本当なら、失われた15年前の生の記録を手にできるのは、君だけだ。

公訴時効の成立まで、残りあと6時間。今夜24時00分を過ぎれば、真実が何であれ罪を問うことは二度とできなくなる。

警察上層部は再捜査を認めない。だから私は、君と私だけの暗号化回線と、警察の公式データベースや科学捜査ツールを閲覧できる特設端末を独断で立ち上げた。まずは2011年11月19日～21日の時点へ赴き、事件直後の生の紙資料（証拠袋1）を回収してほしい。君が持ち帰る「15年前の生の記録」と、私が開いた「現代のデジタル記録」を突き合わせれば、最初の嘘が必ず割れる。

残された時間は少ない。特設捜査報告端末で待っている。

警視庁 未解決記録係　神崎

MPD ENCRYPTED ACCESS CARD

特設捜査報告端末（暗号化専用回線）

有効期限：2026年11月19日 24時00分（公訴時効成立まで）

初回認証コード

20111119

※補足：手元の証拠袋1～4は、あなたが各捜査段階の指示に応じて過去から回収してきた生の資料という扱いになります。フェーズが進み神崎刑事から新たな調査依頼が届くたびに、対応する証拠袋を順番に開封してください。Web上でプレイされる方は、特設捜査報告端末内に表示される各証拠袋の閲覧・ダウンロードボタンをご利用ください。

捜査開始アクセス（QRコードまたはURLよりアクセス）

特設捜査報告端末（神崎刑事 暗号化回線）

上記の初回認証コード「20111119」を入力し、捜査を開始してください。

https://chrono-file.netlify.app/report.html